

航空機による森林火災消火活動

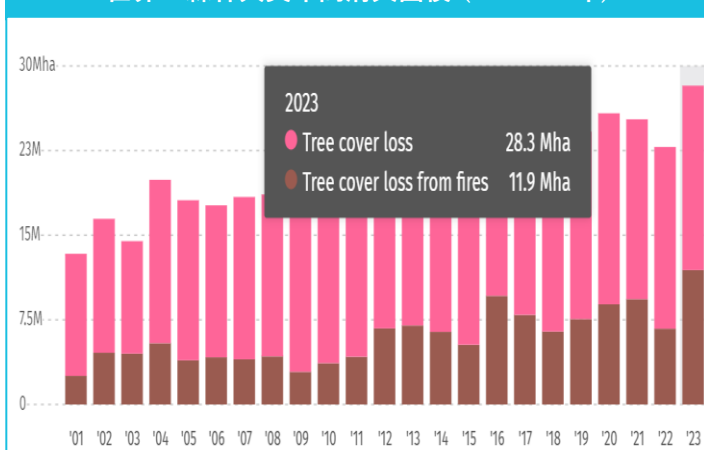
地球温暖化による森林火災消失は過去20年で倍増

世界資源研究所（WRI）の2024年調査報告によれば、気候変動の影響により火災活動が年々増加しており、2023年には約1,200万ヘクタール（北海道と九州を合わせた面積に相当）が焼失したとされています。このため、地球温暖化対策や火災消火活動の重要性が一層高まっています。こうした状況を踏まえ、今月は「**航空機を用いた火災消火活動**」についてご紹介します。

■ 消防用航空機の市場規模は約134億万米ドル（約2兆円）へ

市場調査会社グローバルインフォメーション（東京証券取引所・スタンダード市場上場）調査によれば、消防用航空機の世界市場規模は、年平均成長率（CAGR）+8.8%のペースで拡大し、2028年には2023年の1.4倍に相当する134億2,000万米ドル（約2兆円）に達すると見込まれています。背景には、地球温暖化による森林火災の増加があり、特に影響を受けているのはシベリア、カナダ、北欧の北方林で、過去20年の山火事の大半を占めています。また、豪州や米カリフォルニア州など、北方林に比べ燃えにくいとされてきた地域でも増加傾向にあります（WRI調査）。

世界の森林火災年間消失面積（2001-23年）

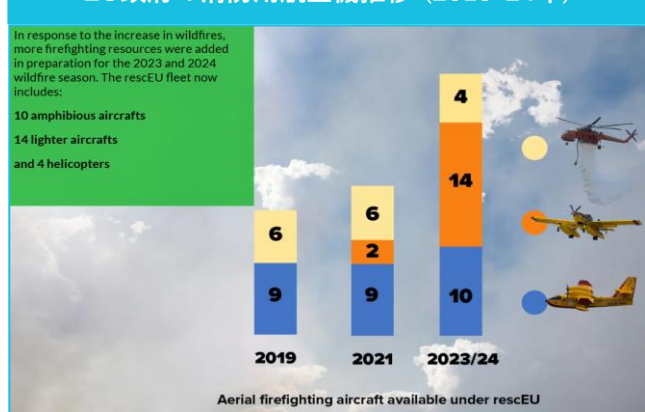


（出所）Global Forest Watchデータベース

■ 森林火災と欧米諸国の政策

欧州連合（EU）は欧州各国の能力だけでは対応が困難な大規模災害に備え、2019年に「rescEU」を創設しており、すべての費用をEUが負担し、欧州委員会が資産の管理・配備を担当します。また、気候変動適応戦略や欧州構造投資基金、団結基金、環境規則などの政府機関と連携する事により、防災準備体制の強化を進めています。2024年に「rescEU」の下で配備された航空機は、加盟10カ国で28機、内ヘリコプター4機を配備しており、2019年比で約2倍に増加しています。今後は、更に12機の消防機を追加配備する予定で、総額6億ユーロ（約960億円）を割当て、欧州全体の防災メカニズムを一層強化する方針です。

EU政府の消防用航空機推移（2019-24年）



（出所）欧州委員会人道援助・市民保護総局（ECHO）ウェブサイト

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。

注記）為替レート：1米ドル=144.10円、1ユーロ=160.38円（2024年10月1日仲値）換算。